



研究者名※	木村 絵里子 KIMURA Eriko	学位※	博士(学術) 修士(社会学)
所属※	人間社会学部 現代社会学科	職名※	助教
連絡先	kimurae@fc.jwu.ac.jp		
URL	なし		
researchmap※	https://researchmap.jp//E-KIMURA		
研究分野※	社会科学、社会学、文化社会学、歴史社会学		
研究キーワード※	女性、文化、親密性、コミュニケーション、メディア、ジェンダー		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「＜日本型コンフルエント・ラブ＞の文化社会学的研究」(科学研究費 若手研究・代表 2021～2025 年) ・「性に関する若者のインタビュー調査——人権とジェンダー平等の観点から」(科学研究費 基盤 C・分担 2021～2026 年) ・「現代若者の再帰的ライフスタイルの諸類型とその成立条件の解明」(科学研究費 基盤 A・分担 2019～2024 年) ・「トランスローカリティの社会学——条件不利地域と地方中枢拠点都市の生活とキャリア」(科学研究費 基盤 B・分担 2018～2022 年) ・「個人化社会における〈自己メディアとしての写真〉の文化社会学的研究」(科学研究費 基盤 C・分担 2019～2022 年) 		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・『「趣味に生きる」の文化論』&『場所から問う若者文化』出版記念合同トークライブ 「仕事×余暇」「東京×地方」を越境する」企画・登壇(2021 年 7 月 24 日オンライン) 		
受賞歴	成瀬仁蔵先生記念賞(2016 年)、日本女子大学教育賞(2021 年)		

研究領域	社会科学、社会学、文化社会学、歴史社会学	(SDGs)	
研究テーマ※	近現代社会における女性の文化に関する文化社会学的研究		
概要※ (概ね 1000 字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 近現代社会における女性の文化について社会学的な研究を行っている。女性文化のなかでも、とりわけヴィジュアルイメージやメディア文化、恋愛関係について、歴史的な視角を含む現代的様相を文化社会学的に考察している。</p> <p>たとえば、木村(2021)は、新しい親密な関係性としての「コンフルエント・ラブ」(Giddens 1992)の議論を踏まえ、必ずしも結婚を前提としない恋愛関係の行動様式を文化社会学の観点から明らかにする試みの一端となる。平均初婚年齢が上がり、結婚までの期間が長期化している現代において、従来の諸研究のように親密で排他的な愛情関係や性関係のあり方を「結婚」という枠組みのなかで捉えるだけでは不十分である。言説的手法を用いて雑誌資料の分析を行い、日本社会におけるロマンティック・ラブからコンフルエント・ラブへの移行・歴史的変化、そしてその変化によって特徴づけられる今日のありようを探求している。</p> <p>【応用例、研究の展望】 現代の日本社会の恋愛関係を＜日本型コンフルエント・ラブ＞として捉え、その理論的解明を目指している。また、木村(2016b)では、近代社会において、女性身体と＜美しさ＞の意味的まとまりがいかに構築されたのかということについて、歴史社会学、とくに言説分析的手法を用いて考察したが、現在、出版化を検討しているところである。上記のような研究テーマは、現代社会の文化に関心を持つ者にとって重要なものだが、研究の蓄積が十分とは言い難い領域であり、今後の発展が期待される。</p> <p>【研究方法の特色】 雑誌や書籍などを対象にした言説分析的手法とともに、計量調査も行っている(木村 2016bなど)。言説的手法については、今後はソーシャルメディアも含めた言説的布置に目を向けていきたいと考えている。専門社会調査士、取得(2018 年)</p>		
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・木村絵里子、2021、「1980 年代、『non-no』の恋愛文化——現在を対象化するために」『現代思想』2021 年9月号(特集＝＜恋愛＞の現在):91-100 ・木村絵里子・轡田竜蔵・牧野智和編、2021『場所から問う若者文化——ポストアーバン化時代の若 		

	<p>者論』晃洋書房</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木村絵里子、2019、「メディア経験としての「東京百美人」——19世紀末の新聞記事からみるメディア・イベントの成立過程」『マス・コミュニケーション研究』第94号:205-222 ・木村絵里子、2016a、「「情熱」から「関係性」を重視する恋愛へ——1992年、2002年、2012年調査の比較から」藤村正之・浅野智彦・羽渕一代編『現代若者の幸福——不安感社会を生きる』恒星社厚生閣:119-150 ・木村絵里子、2016、「〈女性美〉の歴史社会学——1880年から1930年までの「近代性」の位相」日本女子大学博士論文
<p>共同研究・外部機関との連携への期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチングアプリや地方自治体の婚活事業の共同研究など